

令和6年11月8日

文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム 「「モニュメント」はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興」 を開催します

文化庁は、文化遺産国際協力コンソーシアムとの共催により、令和6年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「「モニュメント」はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興」を下記のとおり開催しますので、お知らせします。

1. 概要

2019年4月に発生した、パリの象徴であるノートルダム大聖堂の火災によって木造の尖塔や屋根が全焼したことにより、当初はまったく新しい建築デザインでの再建が計画されるなど、大きく失われた部分をいかに修復すべきか？という「モニュメント（monument = 欧州諸国における文化的・歴史的な価値をもつ建物等の有形物の総称）」の保存の根本にまで立ち返る議論を呼び起こしました。

本シンポジウムでは、災禍から復興したノートルダム大聖堂が本年12月に一般公開される機会を捉え、「モニュメント」保存の長い歴史と伝統をもつフランスにおいて、奈良文書が提起した木造建築や修復技術の「オーセンティシティ」が今回の修復工事の考え方や修復方法にどのような影響を与えたか等について、日中仏の専門家による議論を通じて展望します。

日 時：令和6年11月30日（土）13：00～16：45（開場12：30～）
会 場：東京富士大学 二上講堂（東京都新宿区下落合一丁目9番5号 高田馬場
駅より徒歩7分）

プログラム：別紙チラシを参照

定 員：対面：200名（入場無料、事前申込制）
オンライン：無制限（事前申込制）

言 語：日本語・英語（同時通訳有）

主 催：文化庁、文化遺産国際協力コンソーシアム

後 援：外務省、国際協力機構、国際交流基金、日本イコモス国内委員会

2. 申込方法

下記申込フォームよりお申込みください。＜申込締切：11月22日（金）＞

<https://reg31.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mgk-ljlgnb-209d6791addb241b369d4ab9046acfcc>

申込フォーム QR コードはこちら



3. 取材について

会場での取材を希望される報道関係者は、必要事項（別添）をご記入の上、11月22日（金）17時までに文化遺産国際協力コンソーシアム事務局（下記 E-mail または Fax）までご連絡ください。

(Email: consortium_tobunken@nich.go.jp)

(Fax: 03-3823-4027)

＜担当＞ 文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室
木南・川口・田辺
電話：03-5253-4111（内線 2870）



別添

令和 6 年度シンポジウム
「モニュメント」はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興
(令和 6 年 1 1 月 3 0 日 (土) 1 3 時 0 0 分～, 東京富士大学 二上講堂)

取 材 登 録 票

1 御所属 _____

(フリガナ)

2 御氏名 _____

3 人 数 _____

4 電話番号 _____

5 メールアドレス _____

6 取材希望日 (○印をつけてください)

事前取材のみ ・ 当日取材のみ ・ 両方

取材希望日 (月 日)

7 持ち込む機材等 (○印をつけてください)

スチールカメラ ・ ムービーカメラ

令和6年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム

「モニュメント」はいかに保存されたか ノートルダム大聖堂の災禍からの復興



Restoration of Notre-Dame de Paris and
Philosophy of Monuments Conservation
2024.

開催

11.30 (土)

13:00-16:45 (12:30 開場)

会場

東京富士大学 二上講堂

対面開催(定員200名) + オンライン同時配信 (YouTube)

入場無料

要事前申込

日英同時通訳

詳しくはこちら▶ [文化遺産国際協力コンソーシアム](#) [X @jcic_heritage](#) [jcicheritage](#)

共催：文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁
後援：外務省、国際協力機構、国際交流基金、日本イコモス国内委員会



JCIC-Heritage



文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

「モニュメント」はいかに保存されたか

ノートルダム大聖堂の災禍からの復興

Restoration of Notre-Dame de Paris and
Philosophy of Monuments Conservation

2024.11.30 (土) 13:00-16:45 (12:30 開場)

2019年4月に発生した、パリの象徴であるノートルダム大聖堂の災禍は、未だに私たちの記憶に新しくあります。この火災によって木造の尖塔や屋根が全焼したことにより、当初はまったく新しい建築デザインでの再建が計画されるなど、大きく失われた部分をいかに修復すべきか？という「モニュメント（monument = 欧州諸国における文化的・歴史的な価値をもつ建物等の有形物の総称）」の保存の根本にまで立ち返る議論を呼び起こしました。一方で、結果的に木造での復旧となった修復工事で、発災前に作成されていた精密な3Dデータが崩落した部材の元位置の特定や補足材での再現などに積極的に活用され、「モニュメント」の修復技術に新たな可能性を示しました。

奇しくも本年が採択30周年にあたる奈良文書は、東アジアを中心とした木造建築文化圏の伝統的な修復技術が「モニュメント」の価値を根拠づける「オーセンティシティ（authenticity = 信頼できること、出所の正しさ）」の保障に資することを高らかに謳い、その後の文化遺産の「オーセンティシティ」概念の拡大に大きな貢献を果たしてきました。本シンポジウムでは、災禍から復興したノートルダム大聖堂が本年12月に一般公開される機会を捉え、「モニュメント」保存の長い歴史と伝統をもつフランスにおいて、木造の復旧を中心とした今回の修復工事において「オーセンティシティ」がどのように認識され、実際の修復方法にいかに適用されたかを振り返るとともに、奈良文書が提起した木造建築や修復技術の「オーセンティシティ」が今回の修復工事の考え方や修復方法にどのような影響を与えたか、日中仏の専門家による議論を通じて展望します。

プログラム

13:00-13:05	開会挨拶	青柳 正規（文化遺産国際協力コンソーシアム会長）
13:05-13:20	趣旨説明	
13:20-13:45	基調講演1	「ベニス憲章と奈良ドキュメントの観点から見たノートルダム大聖堂の再建と修復」 フィリップ・ヴィルヌーヴ（ノートルダム大聖堂修復事業技術者、歴史的記念物主任建築家）ビデオ講演
13:45-14:20	基調講演2	「ノートルダム大聖堂：新たなオーセンティシティに向けて」 ベンジャミン・ムートン（歴史的記念物名誉総監察官、歴史的記念物主任建築家）
14:30-15:00	講演1	「東京駅丸の内駅舎 保存・復原プロジェクト」 田原 幸夫（京都工芸繊維大学客員教授）
15:00-15:30	講演2	「文化遺産の保護とオーセンティシティ：大上清宮を例に」 呂 舟（清華大学教授）
15:40-16:40	パネルディスカッション	モデレーター： 稲葉 信子（筑波大学名誉教授、放送大学客員教授） パネリスト： 上記各登壇者 ゲストコメンテーター： ジョージ・アブング（ケニア国立博物館名誉館長） 長岡 正哲（ユネスコナイロビ支部文化局東アフリカ地域文化アドバイザー）
16:40-16:45	閉会挨拶	岡田 保良（文化遺産国際協力コンソーシアム副会長、日本イコモス国内委員会委員長）

●アクセス

東京富士大学 二上講堂（東京都新宿区下落合一丁目9番5号）
●高田馬場駅より徒歩7分

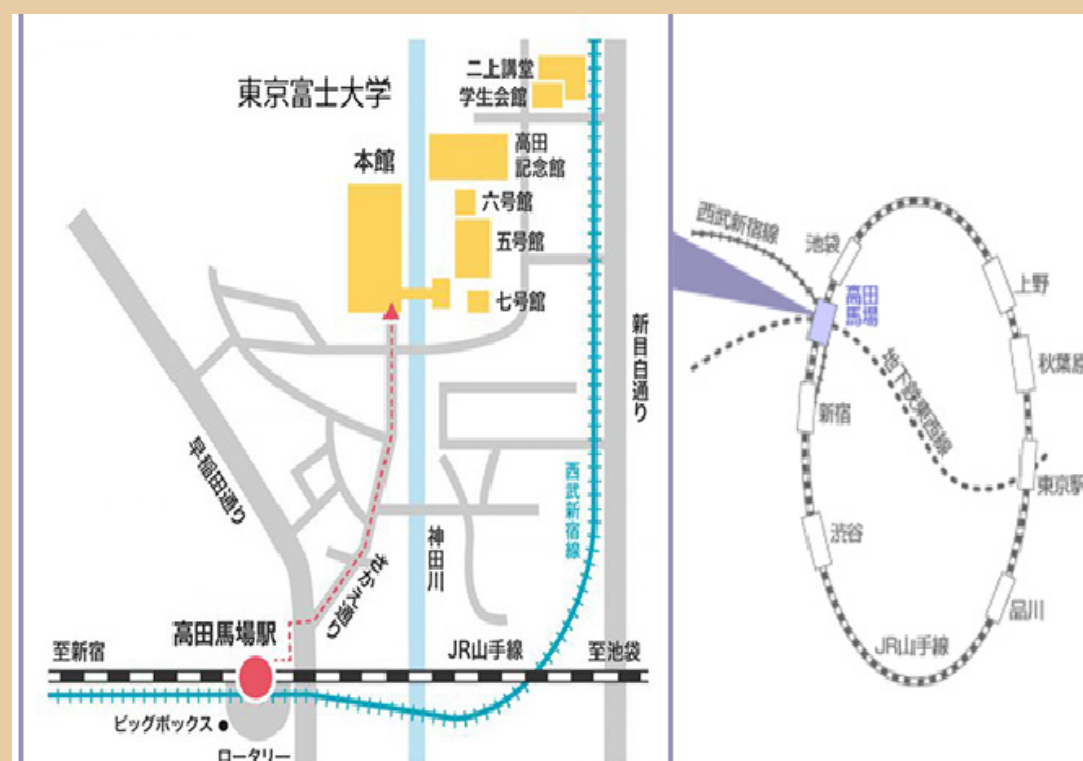
●申込方法

文化遺産国際協力コンソーシアムウェブサイトより
お申込みください。 申込締切日：11月22日（金）

<https://www.jcic-heritage.jp/>

●お問合せ先

文化遺産国際協力コンソーシアム事務局
独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 所内
Tel: 03-3823-4841 Fax: 03-3823-4027
Email: consortium_tobunken@nich.go.jp



共催：文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁
後援：外務省、国際協力機構、国際交流基金、日本イコモス国内委員会